

6 浪江町の復旧・復興

(1) 【安心に関するもの】として取り組んで欲しい順

問9 将来、浪江町が復旧・復興していくための取り組みや、必要と思うものについて、うかがいます。

(1)【安心に関するもの】として、取り組んで欲しい順を教えてください。(○はそれぞれ1つずつ)

将来、浪江町が復旧・復興していくための【安心に関するもの】の取り組みで取り組んで欲しい順を聞いたところ、1番目としては「放射線量を許容できる範囲まで低下させること」(37.6%)と「原子力発電所の安全性が確保されること」(36.7%)がともに4割近く、ほぼ同率となっている。

2番目の取り組むものとしても、「放射線量を許容できる範囲まで低下させること」という回答者が30.4%で最も多い。「水道水等の生活用水が安全であることが確認されること」は、3番目の取り組みとして39.5%があげている。(図表6-1-1)

図表 6-1-1 【安心に関するもの】としての取り組み順位

							(%)
		低放射線量を許容	原子力発電所の	水道水の安全性が	その他	無回答	
1番目	(n=11298)	37.6	36.7	18.1	2.0	5.7	
2番目	(n=11298)	30.4	24.5	21.9	1.0	22.2	
3番目	(n=11298)	12.0	18.4	39.5	2.0	28.0	

(2) 【インフラ・生活に関するもの】として必要なもの

問9 将来、浪江町が復旧・復興していくための取り組みや、必要と思うものについて、うかがいます。

(2)【インフラ・生活に関するもの】について、「もっとも必要と思うもの」から「3番目に必要と思うもの」までを、それぞれ1つずつ教えてください。(○はそれぞれ1つずつ)

将来、浪江町が復旧・復興していくための【インフラ・生活に関するもの】として必要と思うもの上位3つを聞いたところ、もっとも必要と思うことと2番目に必要なこととして、ともに「医療機関(病院、診療所)が整備されること」(もっとも必要と思うこと23.0%、2番目に必要なこと21.4%)が最も多くあげられ、3番目としては「町内に商店、スーパーなどの商業施設が再開すること」(21.1%)という回答者が最も多くなっている。(図表6-2-1)

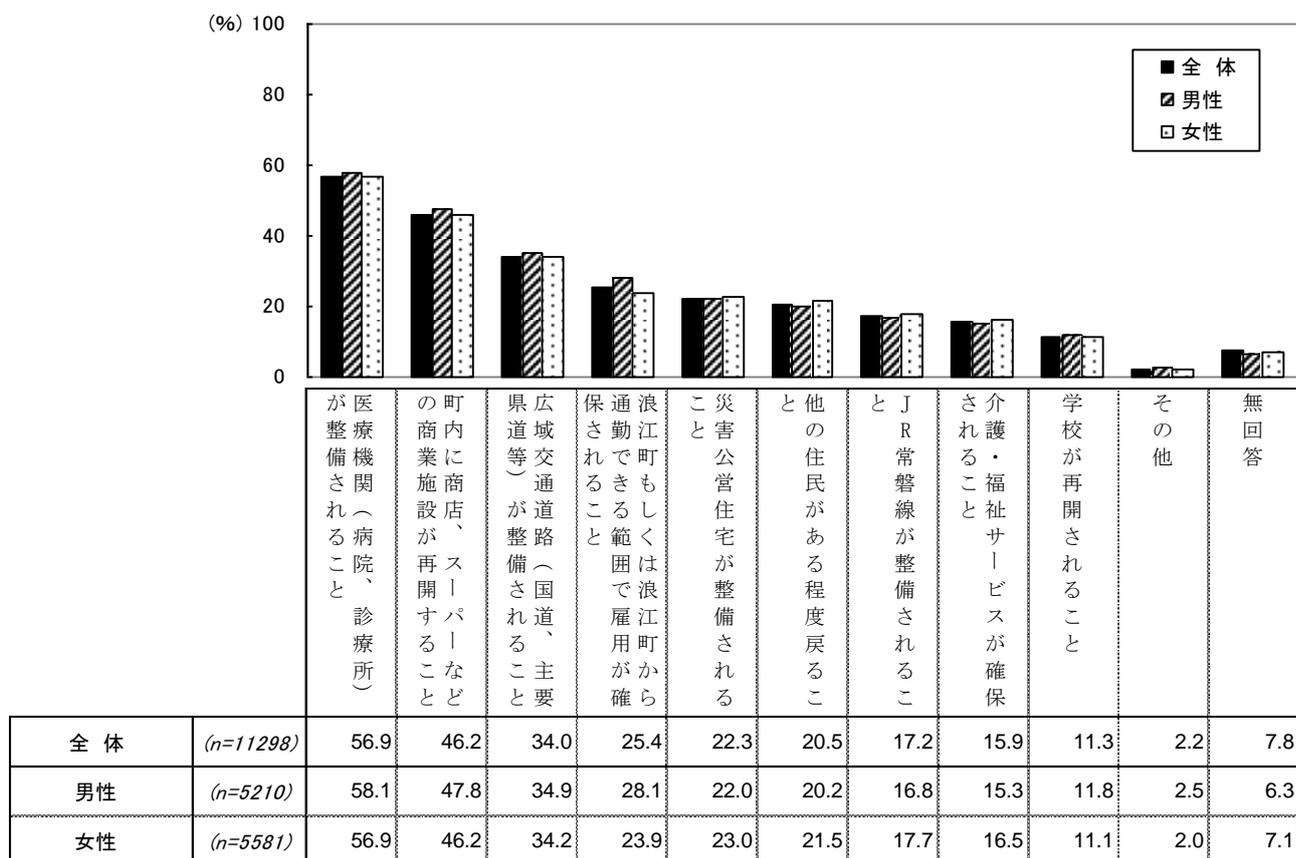
図表 6-2-1 【インフラ・生活に関するもの】として必要なもの

		医療機関(病院、診療所)が整備されること	町内に商店、スーパーなどの商業施設が再開すること	広域交通道路(国道等)が整備されること	浪江町でもっとも必要とされること	災害公営住宅が整備されること	他の住民がある程度	JR常磐線が整備されること	介護・福祉サービスが整備されること	学校が再開されること	その他	無回答
1番目	(n=11298)	23.0	8.9	15.4	13.5	11.9	6.7	4.9	3.5	2.8	1.6	7.8
2番目	(n=11298)	21.4	16.2	9.7	6.4	6.1	5.0	7.2	7.0	4.3	0.4	16.3
3番目	(n=11298)	12.4	21.1	8.9	5.5	4.3	8.8	5.0	5.4	4.1	0.5	24.0

上位3つまでの回答を足し上げ、複数回答としてみると「医療機関(病院、診療所)が整備されること」が56.9%で最も多くあげられ、以下「町内に商店、スーパーなどの商業施設が再開すること」(46.2%)、「広域交通道路(国道、主要県道等)が整備されること」(34.0%)、「浪江町もしくは浪江町から通勤できる範囲で雇用が確保されること」(25.4%)、「災害公営住宅が整備されること」(22.3%)などの順となっている。(図表6-2-2)

男女別に見ると、「浪江町もしくは浪江町から通勤できる範囲で雇用が確保されること」(男性28.1%、女性23.9%)という回答は、女性より男性に多くあげられている。(図表6-2-2)

図表6-2-2 【インフラ・生活に関するもの】として必要なもの(複数回答)(男女別)



性・年代別に見ると、「医療機関(病院、診療所)が整備されること」と「介護・福祉サービスが確保されること」は、男女とも高齢層に多くあげられる傾向がある。一方、「浪江町もしくは浪江町から通勤できる範囲で雇用が確保されること」は、男性の10~50代と女性の10~40代に、それぞれ多くあげられている。また、「学校が再開されること」は、女性の30代で23.5%と多くあげられている。(図表6-2-3)

図表 6-2-3 【インフラ・生活に関するもの】として必要なもの(複数回答)(性・年代別)

		医療機関(病院、診療所)が整備されること	町内に商店、スーパーなどの商業施設が再開すること	広域交通道路(国道、主要県道等)が整備されること	困りから通勤できる範囲で雇用が確保されること	浪江町もしくは浪江町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	災害公営住宅が整備されること	他の住民がある程度戻ること	JR常磐線が整備されること	介護・福祉サービスが確保されること	学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=11298)	56.9	46.2	34.0	25.4	22.3	20.5	17.2	15.9	11.3	2.2	7.8	
男性10-20代	(n=536)	51.5	51.7	38.1	41.2	20.5	24.8	20.1	9.3	12.5	2.1	3.4	
男性30代	(n=579)	55.3	45.8	32.0	36.6	19.9	25.9	15.5	10.5	17.8	4.7	5.5	
男性40代	(n=665)	53.4	48.1	30.7	40.8	18.8	22.7	13.7	11.1	19.4	3.3	5.1	
男性50代	(n=1066)	57.1	48.0	34.8	35.9	22.2	20.3	16.0	12.2	9.8	3.1	5.3	
男性60代	(n=1214)	60.5	48.8	38.6	17.8	23.6	18.9	16.1	16.8	9.2	2.4	6.9	
男性70代以上	(n=1145)	63.9	45.8	33.4	13.9	23.6	15.4	19.0	24.5	8.6	0.7	9.1	
女性10-20代	(n=635)	53.7	43.5	34.0	40.6	22.2	26.5	17.8	11.3	12.8	2.0	6.1	
女性30代	(n=588)	52.9	42.0	31.0	35.0	18.7	27.6	14.1	11.4	23.5	3.2	5.8	
女性40代	(n=694)	56.2	44.1	37.5	35.4	20.9	24.2	16.0	9.5	16.0	2.2	4.8	
女性50代	(n=1073)	52.5	48.0	41.6	27.0	23.3	24.0	16.8	10.5	8.8	2.3	5.3	
女性60代	(n=1094)	58.6	49.5	37.8	15.1	26.3	20.0	19.1	16.3	7.8	2.4	5.6	
女性70代以上	(n=1480)	62.1	46.1	26.3	11.3	23.2	15.0	19.5	28.4	7.5	1.1	11.4	

浪江町への帰還意向別(p.76 参照)に見ると、避難指示解除の地区に関わらず浪江町に「すぐに帰りたい」もしくは「条件を整えば帰りたい」と、比較的帰還意向の強い回答者に「災害公営住宅が整備されること」が3割前後と多くあげられている。「医療機関(病院、診療所)が整備されること」と「町内に商店、スーパーなどの商業施設が再開すること」は、「自宅で条件を整えば帰りたい」もしくは「しばらくは二地域居住を考えている」という回答者に多くあげられている。(図表 6-2-4)

図表 6-2-4 【インフラ・生活に関するもの】として必要なもの(複数回答)(浪江町への帰還意向別)

		医療機関(病院、診療所)が整備されること	町内に商店、スーパーなどの商業施設が再開すること	広域交通道路(国道、主要県道等)が整備されること	困りから通勤できる範囲で雇用が確保されること	浪江町もしくは浪江町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	災害公営住宅が整備されること	他の住民がある程度戻ること	JR常磐線が整備されること	介護・福祉サービスが確保されること	学校が再開されること	その他	無回答
全体	(n=11298)	56.9	46.2	34.0	25.4	22.3	20.5	17.2	15.9	11.3	2.2	7.8	
すぐに帰りたい	(n=258)	46.1	40.3	29.1	27.5	27.9	14.3	15.9	20.9	7.8	2.3	8.5	
条件を整えば帰りたい	(n=475)	57.7	45.7	31.6	25.3	30.9	17.3	16.6	19.4	10.5	1.1	4.8	
自宅であれば、すぐに帰りたい	(n=290)	59.0	48.3	36.9	17.6	17.9	13.8	19.7	22.8	9.0	2.4	11.0	
自宅であれば、条件を整えば帰りたい	(n=1491)	64.6	53.0	33.5	20.7	20.2	20.5	17.0	18.6	12.7	1.4	4.2	
しばらくは二地域居住	(n=1913)	61.8	52.2	40.7	25.7	22.1	22.6	18.2	15.1	10.3	1.8	2.8	
まだ判断がつかない	(n=3325)	57.7	47.9	32.6	28.4	24.1	22.5	16.6	15.5	13.2	1.9	4.1	
浪江町には戻らない	(n=3115)	52.9	40.6	34.7	27.0	20.7	20.5	18.2	14.2	10.8	3.5	11.2	

(3) 浪江町への帰還意向

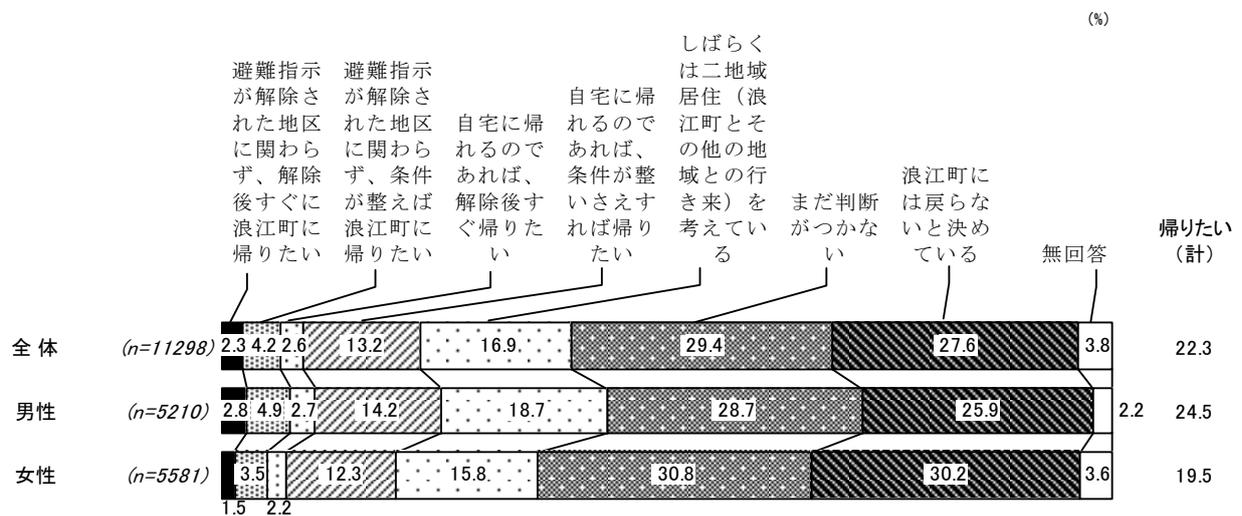
問 10 将来、避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ)

将来、避難指示が解除された際の浪江町への帰還意向を聞いたところ、「避難指示が解除された地区に関わらず、解除後すぐに浪江町に帰りたい」という回答者は 2.3% で、「避難指示が解除された地区に関わらず、条件が整えば浪江町に帰りたい」(4.2%)、「自宅に帰れるのであれば、解除後すぐ帰りたい」(2.6%)、「自宅に帰れるのであれば、条件が整いさえすれば帰りたい」(13.2%) など“帰還意向”のある回答者は 2 割を上回っている。また、「しばらくは二地域居住(浪江町とその他の地域との行き来)を考えている」という回答者も 16.9% おり、帰還意向者と合わせると、町民の 4 割が、将来の避難指示解除後に、浪江町の帰還を模索している。

一方、「浪江町には戻らないと決めている」という回答者は 27.6%、「まだ判断がつかない」という回答者は 29.4% である。(図表 6-3-1)

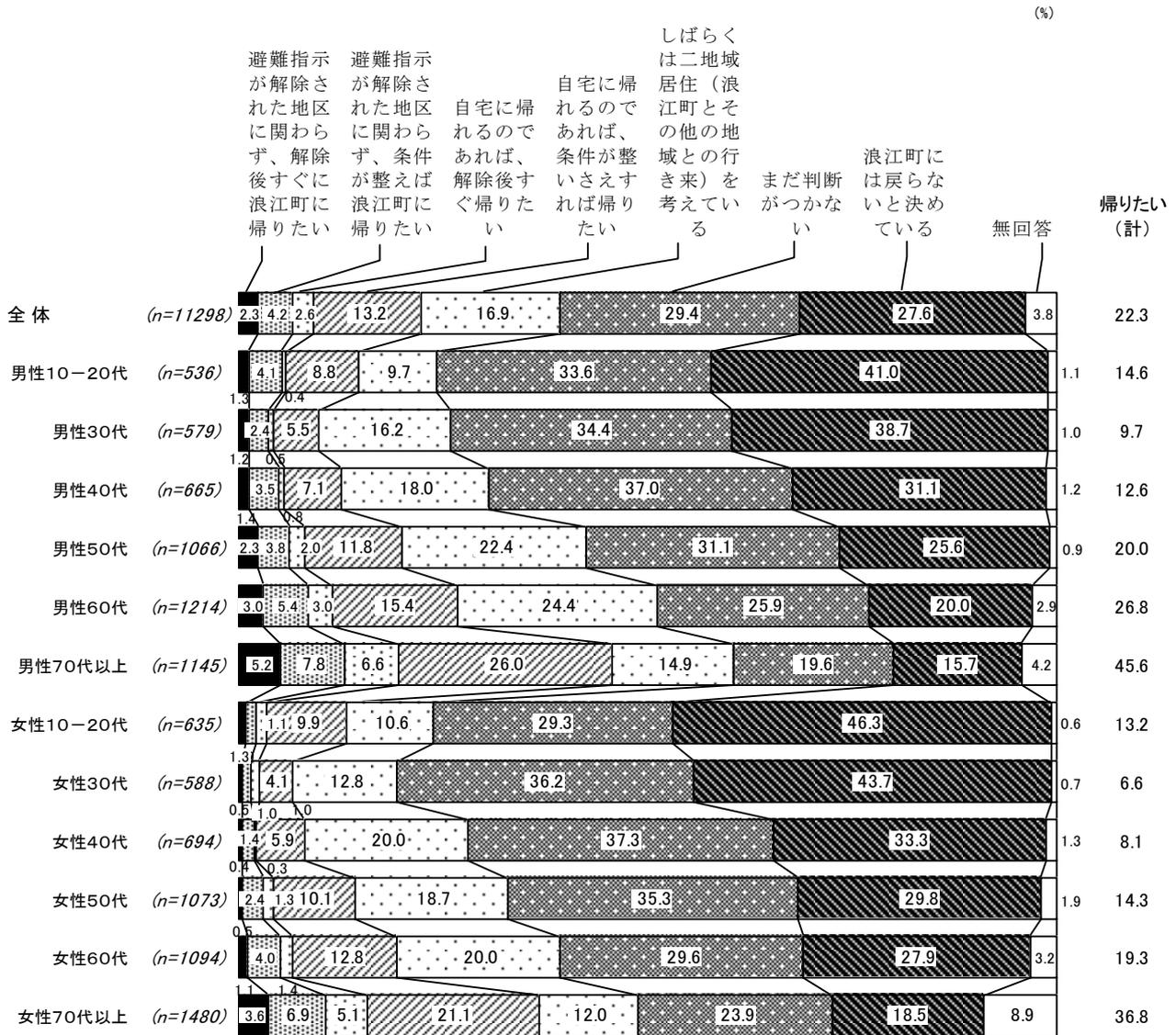
男女別に見ると、“帰還意向”は女性より男性の方が、やや強くなっている。(図表 6-3-1)

図表 6-3-1 浪江町への帰還意向(男女別)



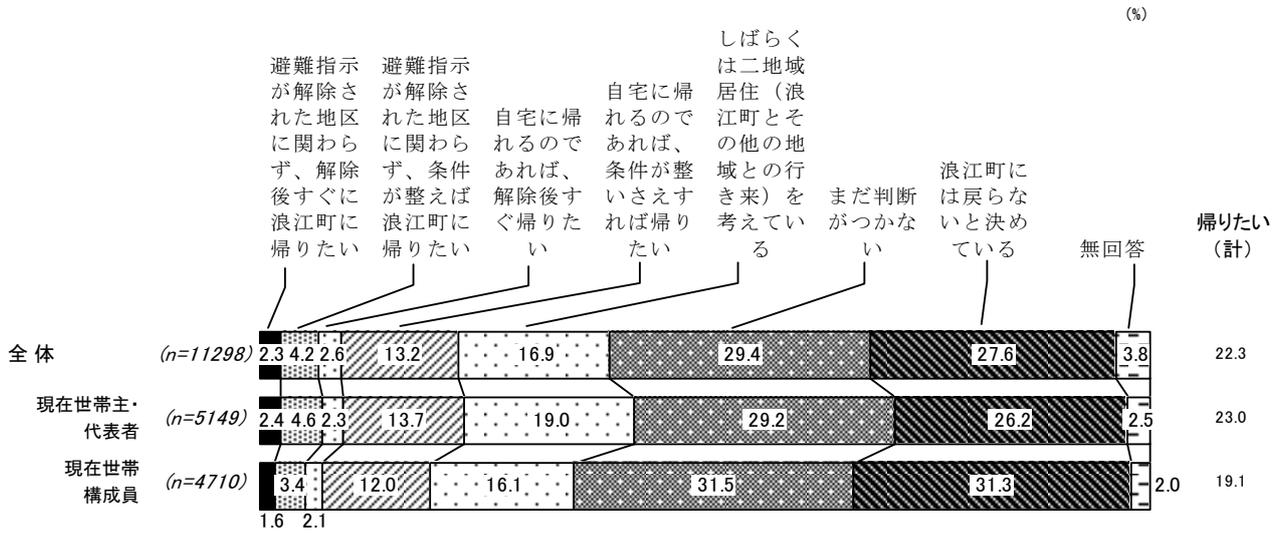
性・年代別に見ると、「自宅に帰れるのであれば、条件が整いさえすれば帰りたい」という回答者は、男女とも高齢層ほど多く、特に70代以上では2割を上回っている。一方、「浪江町には戻らないと決めている」という回答者は若年齢層ほど多く、男性の10～20代と女性の10～30代では4割以上を占めている。(図表6-3-2)

図表 6-3-2 浪江町への帰還意向(性・年代別)



現在の世帯での立場別に見ると、「浪江町には戻らないと決めている」(世帯主 26.2%、構成員 31.3%)という回答者は、世帯主もしくは世帯の代表者より世帯構成員に多く、“帰還意向”は世帯主・代表者の方がやや強くなっている。(図表 6-3-3)

図表 6-3-3 浪江町への帰還意向(現在の世帯での立場別)



(4) 帰還までの猶予年数

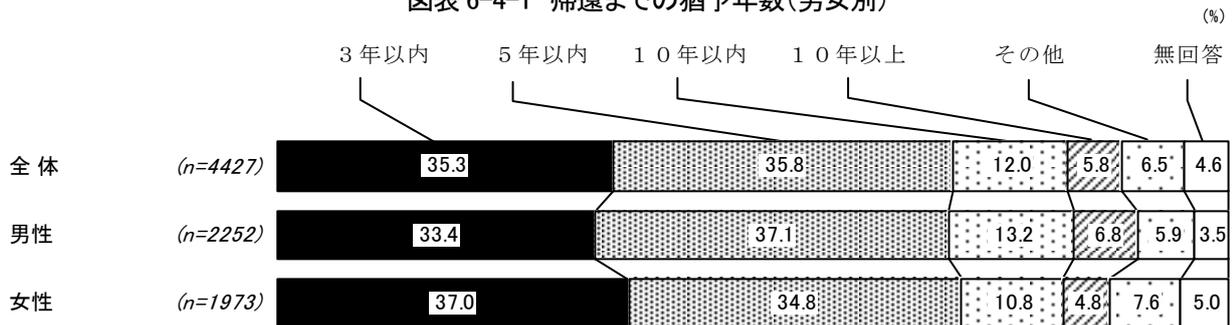
【問10で「1」～「5」と回答した方にかかっています。】

問11 現時点から浪江町に戻るまで、どのくらいの期間であれば待つことができますか。(〇は1つ)

浪江町の避難指示が解除された場合、浪江町に『帰りたい』もしくは、しばらくは二地域居住を考えている人(4,427人)に、帰還まで待てる時間を聞いたところ、「3年以内」(35.3%)と「5年以内」(35.8%)が3割台でほぼ同率となっており、『5年以内』での帰還を7割が希望している。(図表6-4-1)

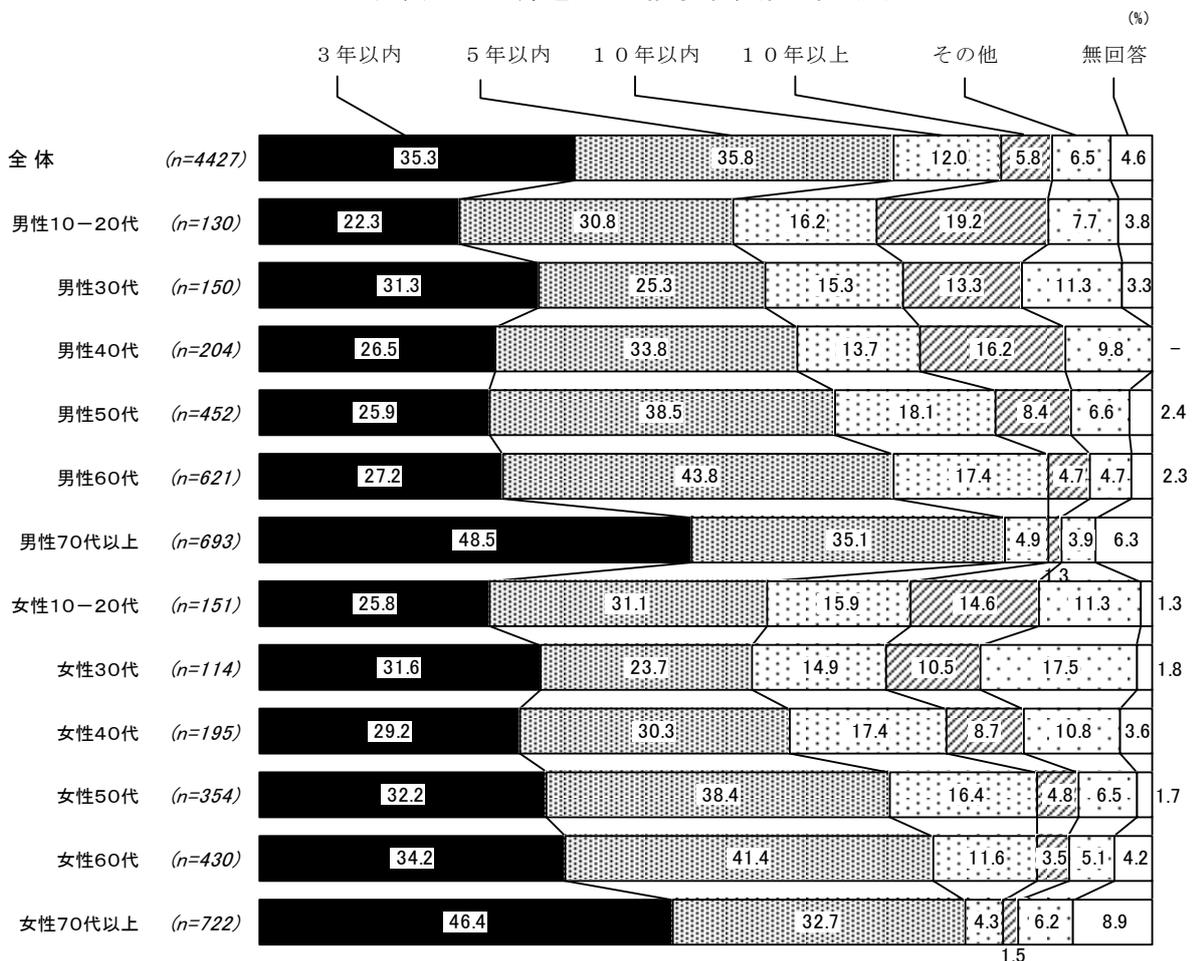
男女別に見ると、「3年以内」(男性33.4%、女性37.0%)という回答者は男性より女性にやや多く、女性の方が早期帰還を希望している。(図表6-4-1)

図表6-4-1 帰還までの猶予年数(男女別)



性・年代別に見ると、「3年以内」という回答者は、男女とも高年齢層ほど多く、70代以上の年齢層では半数近くが要望している。(図表6-4-2)

図表6-4-2 帰還までの猶予年数(性・年代別)



(5) 帰還のための条件や必要な情報

【問10で「1」～「6」と回答した方(「7 浪江町に戻らないと決めている」と回答された方以外)にうかがいます。】

問12-1 浪江町に戻るための条件は何ですか、また、戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報は何か。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

問12-2 上記問12 で回答した条件のうち、あなたがもっとも重視したい条件を、3つまで選んで、その番号をご記入ください。

(回答は3つまで)

浪江町への帰還について「浪江町に戻らないと決めている」という回答者以外の人(7,752 人)に、浪江町への帰還の条件や帰還を判断する上で必要な情報をすべてあげてもらったところ、「医療機関(病院、診療所)の整備・再開時期の目途」(79.2%)、「上下水道などのライフラインの復旧時期の目途」(76.5%)、「商店、スーパーなどの生活に必要な商業施設の再開の目途」(74.6%)、「福島第一原子力発電所の安全性の確保」(70.4%)などが、いずれも7割以上あげられ上位となっている。(図表 6-5-1)

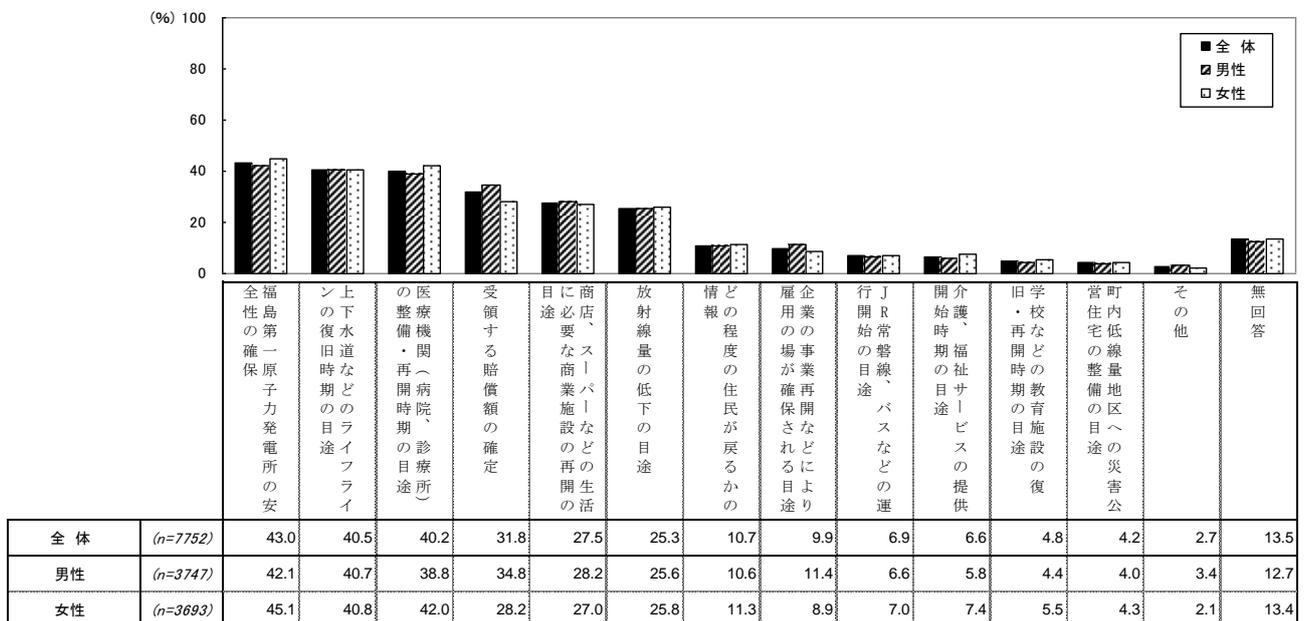
さらに、最も重視したい条件 3 つまでに絞り込んでもらったところ、「福島第一原子力発電所の安全性の確保」(43.0%)、「上下水道などのライフラインの復旧時期の目途」(40.5%)、「医療機関(病院、診療所)の整備・再開時期の目途」(40.2%)がいずれも4割台で並び、上位3項目となっている。(図表 6-5-1)

図表 6-5-1 帰還のための条件や必要な情報

		の医療機関へ病院、診療所の整備・再開時期の目途	上下水道などのライフラインの復旧時期の目途	商店、スーパーなどの生活に必要な商業施設の再開の目途	福島第一原子力発電所の安全性の確保	放射線量の低下の目途	受領する賠償額の確定	JR常磐線、バスなどの運行開始の目途	介護、福祉サービスの提供開始時期の目途	どの程度の住民が戻るかの情報	企業の事業再開などに伴う雇用確保の目途	学校などの教育施設の復旧・再開時期の目途	町内低線量地区への災害公営住宅の整備の目途	その他	無回答
浪江町に戻るための条件	(n=7752)	79.2	76.5	74.6	70.4	63.5	54.5	41.3	41.2	38.3	36.9	30.7	27.5	4.4	7.3
もっとも重視したい条件	(n=7752)	40.2	40.5	27.5	43.0	25.3	31.8	6.9	6.6	10.7	9.9	4.8	4.2	2.7	13.5

最も重視したい条件を男女別に見ると、「受領する賠償額の確定」(男性34.8%、女性28.2%)という回答者は、女性より男性に多くなっている。(図表 6-5-2)

図表 6-5-2 最も重視したい帰還のための条件や必要な情報(男女別)



性・年代別に見ると、「医療機関(病院、診療所)の整備・再開時期の目途」は男女とも高年齢層に、「福島第一原子力発電所の安全性の確保」「放射線量の低下の目途」「企業の事業再開などにより雇用の場が確保される目途」は若年齢層ほど、それぞれ多くあげられる傾向がある。また、「学校などの教育施設の復旧・再開時期の目途」は、男女とも30代に関心が高い。(図表 6-5-3)

図表 6-5-3 最も重視したい帰還のための条件や必要な情報(性・年代別)

		保電福島の安全原子力確保	福島第一原子力発電所の復旧	上下水道などの復旧	医療機関(病院、診療所)の整備・再開時期の目途	受領する賠償額の確定	商店、スーパなどの生活に必要な施設の再開の目途	放射線量の低下の目途	どの程度の情報が戻るか	企業の事業再開などにより雇用の場が確保される目途	JR常磐線、バスなどの運行開始の目途	介護、福祉サービスの提供開始時期の目途	学校などの教育施設の復旧・再開時期の目途	町内低線量地区への整備の目途	その他	無回答
全体	(n=7752)	43.0	40.5	40.2	31.8	27.5	25.3	10.7	9.9	6.9	6.6	4.8	4.2	2.7	13.5	
男性10-20代	(n=310)	48.1	42.6	21.9	24.8	31.6	35.2	16.8	24.8	10.0	1.9	7.1	2.9	3.9	7.7	
男性30代	(n=349)	45.8	34.1	24.6	27.5	18.9	32.4	13.8	24.4	4.9	2.6	14.0	4.0	5.7	13.8	
男性40代	(n=450)	44.9	36.0	26.7	32.9	24.7	32.7	13.8	21.1	4.0	2.2	8.0	4.0	6.0	11.3	
男性50代	(n=783)	44.7	40.9	35.2	33.3	26.6	29.0	10.6	15.2	6.6	4.0	2.0	4.3	4.1	12.6	
男性60代	(n=936)	42.5	42.5	43.1	39.2	29.8	25.1	9.5	3.8	6.6	6.2	2.4	5.2	2.6	12.1	
男性70代以上	(n=917)	34.7	42.6	54.6	38.7	32.2	13.8	7.1	1.5	7.5	11.3	2.2	2.8	1.2	15.3	
女性10-20代	(n=337)	50.7	46.3	31.2	19.9	23.4	40.1	13.1	17.2	9.5	3.3	10.1	3.3	2.4	8.9	
女性30代	(n=327)	52.3	40.4	32.1	24.5	16.8	45.0	10.4	19.6	4.0	1.5	19.6	4.6	4.6	7.0	
女性40代	(n=454)	50.0	44.1	28.0	23.3	21.6	32.6	13.9	19.6	4.0	1.3	11.5	3.3	3.3	12.3	
女性50代	(n=733)	52.3	44.1	37.9	30.0	26.1	27.1	11.1	10.9	6.8	4.1	2.6	5.7	2.2	11.6	
女性60代	(n=754)	45.9	41.0	46.0	35.4	29.3	22.9	11.8	2.9	7.3	4.9	2.1	4.6	1.5	13.4	
女性70代以上	(n=1075)	34.0	35.5	54.2	27.7	32.6	13.8	9.8	1.3	8.3	17.1	1.7	3.9	1.3	18.2	

現在の世帯での立場別に見ると、「受領する賠償額の確定」(世帯主 34.5%、構成員 27.9%)は、世帯主もしくは世帯の代表者で、世帯構成員より重視されている。(図表 6-5-4)

図表 6-5-4 最も重視したい帰還のための条件や必要な情報(現在の世帯での立場別)

		所福島の安全原子力確保	福島第一原子力発電所の復旧	上下水道などの復旧	医療機関(病院、診療所)の整備・再開時期の目途	受領する賠償額の確定	商店、スーパなどの生活に必要な施設の再開の目途	放射線量の低下の目途	どの程度の情報が戻るか	企業の事業再開などにより雇用の場が確保される目途	JR常磐線、バスなどの運行開始の目途	介護、福祉サービスの提供開始時期の目途	学校などの教育施設の復旧・再開時期の目途	町内低線量地区への整備の目途	その他	無回答
全体	(n=7752)	43.0	40.5	40.2	31.8	27.5	25.3	10.7	9.9	6.9	6.6	4.8	4.2	2.7	13.5	
現在世帯主・代表者	(n=3670)	42.6	41.1	39.1	34.5	27.6	25.6	10.5	10.1	6.6	6.1	4.6	4.6	3.3	12.8	
現在世帯構成員	(n=3142)	45.9	41.2	41.0	27.9	27.9	27.4	11.6	11.1	6.6	7.1	5.6	3.7	2.5	12.1	

(6) 浪江町に帰還しない理由

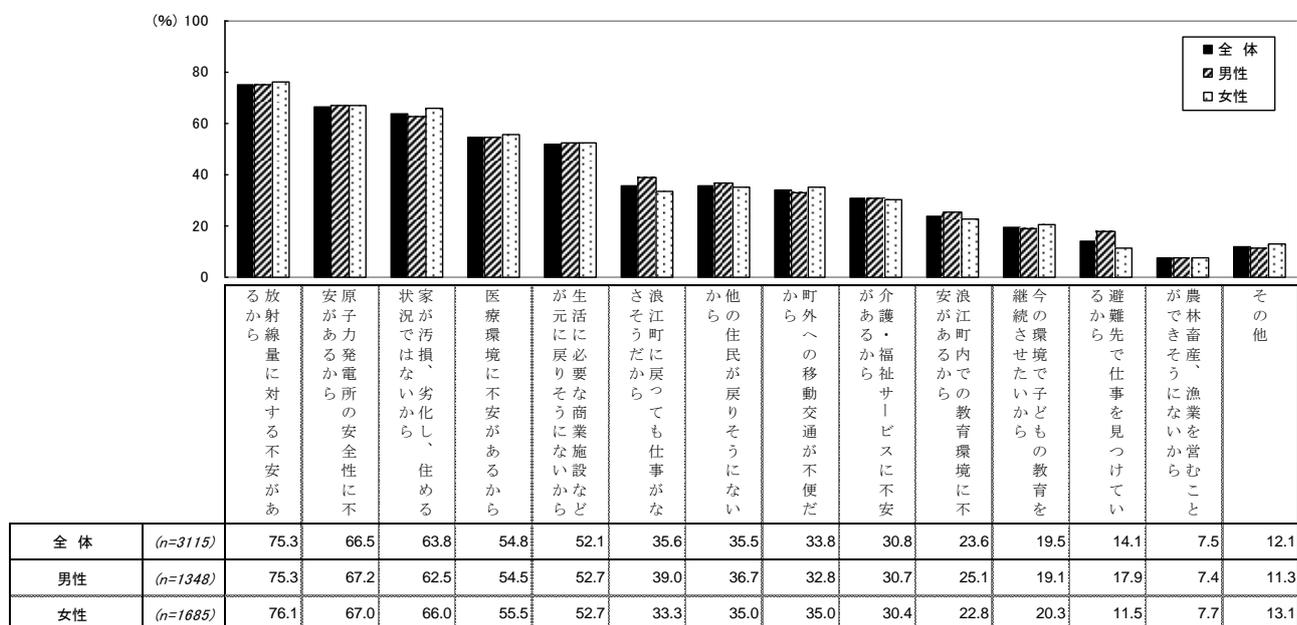
【問 10 で「7 浪江町には戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13 「戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

浪江町の避難指示が解除された場合にも「浪江町には戻らないと決めている」という回答者(3,115 人)が、帰還しない理由としては、「放射線量に対する不安があるから」が 75.3%で最も多くあげられ、以下「原子力発電所の安全性に不安があるから」(66.5%)と「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(63.8%)は 6 割台、「医療環境に不安があるから」(54.8%)と「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(52.1%)は 5 割台となっている。(図表 6-6-1)

男女別に見ると、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(男性 62.5%、女性 66.0%)は男性より女性に、「浪江町に戻っても仕事がなさそうだから」(同 39.0%、33.3%)と「避難先で仕事を見つけているから」(同 17.9%、11.5%)女性より男性に、それぞれ多くあげられている。(図表 6-6-1)

図表 6-6-1 浪江町に帰還しない理由(男女別)



性・年代別に見ると、「放射線量に対する不安があるから」は、女性の30代で85.2%と、特に多くあげられている。

「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」は、男性の高年齢層ほど、多くあげられている。

そのほかの項目では、「浪江町に戻っても仕事になさそうだから」と「避難先で仕事を見つけているから」は男女とも若年齢層に、「介護・福祉サービスに不安があるから」と「農林畜産、漁業を営むことができそうにないから」は男女とも高年齢層に、それぞれ多くあげられている。また、「浪江町内での教育環境に不安があるから」と「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、男女とも30～40代で、帰還しない理由として他の属性より多くあげられている。(図表6-6-2)

図表 6-6-2 浪江町に帰還しない理由(性・年代別)

		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	医療環境に不安があるから	生活に必要な商業施設がないから	浪江町に戻っても仕事になさそうだから	他の住民が戻りそうにないから	町外への移動交通が不便だから	介護・福祉サービスに不安があるから	浪江町内での教育環境に不安があるから	今の環境で子どもを継続させたいから	避難先で仕事を見つけているから	農林畜産、漁業を営むことができそうにないから	その他
全体	(n=3115)	75.3	66.5	63.8	54.8	52.1	35.6	35.5	33.8	30.8	23.6	19.5	14.1	7.5	12.1
男性10-20代	(n=220)	75.9	68.2	58.6	45.9	54.1	56.8	35.5	39.1	17.3	27.3	14.5	23.6	7.3	9.5
男性30代	(n=224)	78.1	63.8	60.7	54.5	55.8	46.4	41.5	41.5	28.6	41.5	31.7	31.3	4.5	11.2
男性40代	(n=207)	79.7	68.1	63.8	54.6	57.0	50.7	37.2	30.9	31.4	39.6	34.8	27.1	4.3	10.6
男性50代	(n=273)	77.3	71.1	63.4	54.2	51.6	39.9	39.2	32.6	28.9	18.3	17.2	15.0	5.9	12.5
男性60代	(n=243)	71.6	68.7	61.3	55.6	50.6	25.1	31.3	26.7	37.4	13.2	8.6	7.8	9.5	8.2
男性70代以上	(n=180)	67.8	61.1	68.3	63.9	46.7	11.7	35.6	24.4	42.8	12.2	7.8	1.7	14.4	16.7
女性10-20代	(n=294)	75.9	63.9	59.2	47.3	53.4	53.1	34.4	33.7	17.0	26.9	16.7	20.4	3.7	9.9
女性30代	(n=257)	85.2	71.6	69.6	58.0	55.3	47.5	42.4	37.4	26.8	49.4	44.7	15.6	4.7	9.7
女性40代	(n=231)	80.5	74.5	65.4	49.8	54.5	47.6	32.0	33.3	19.0	33.8	43.7	14.3	3.5	13.0
女性50代	(n=320)	79.7	71.6	66.3	58.8	57.5	34.7	35.9	40.6	31.9	14.7	11.3	12.8	8.1	16.3
女性60代	(n=305)	76.4	70.2	70.2	59.0	52.5	12.8	35.7	36.1	37.0	11.1	7.9	4.6	11.1	11.8
女性70代以上	(n=274)	59.9	51.1	65.7	59.1	42.7	7.7	28.8	27.4	48.9	6.9	5.5	2.2	14.2	17.5

現在の世帯での立場別に見ると、「放射線量に対する不安があるから」(世帯主 73.1%、構成員 78.7%)と「町外への移動交通が不便だから」(同 31.8%、36.5%)は、世帯主もしくは世帯の代表者より世帯構成員に、「介護・福祉サービスに不安があるから」(同 32.9%、28.8%)は世帯主もしくは世帯の代表者に、それぞれやや多くあげられている。(図表6-6-3)

図表 6-6-3 浪江町に帰還しない理由(現在の世帯での立場別)

		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	医療環境に不安があるから	生活に必要な商業施設がないから	浪江町に戻っても仕事になさそうだから	他の住民が戻りそうにないから	町外への移動交通が不便だから	介護・福祉サービスに不安があるから	浪江町内での教育環境に不安があるから	今の環境で子どもを継続させたいから	避難先で仕事を見つけているから	農林畜産、漁業を営むことができそうにないから	その他
全体	(n=3115)	75.3	66.5	63.8	54.8	52.1	35.6	35.5	33.8	30.8	23.6	19.5	14.1	7.5	12.1
現在世帯主・代表者	(n=1348)	73.1	65.5	63.6	54.8	51.4	34.5	35.8	31.8	32.9	24.0	20.5	16.5	6.5	12.0
現在世帯構成員	(n=1472)	78.7	68.8	64.1	55.3	54.3	39.0	35.4	36.5	28.8	25.2	20.2	13.4	8.4	12.5

(7) 今後の生活において行政に望む支援

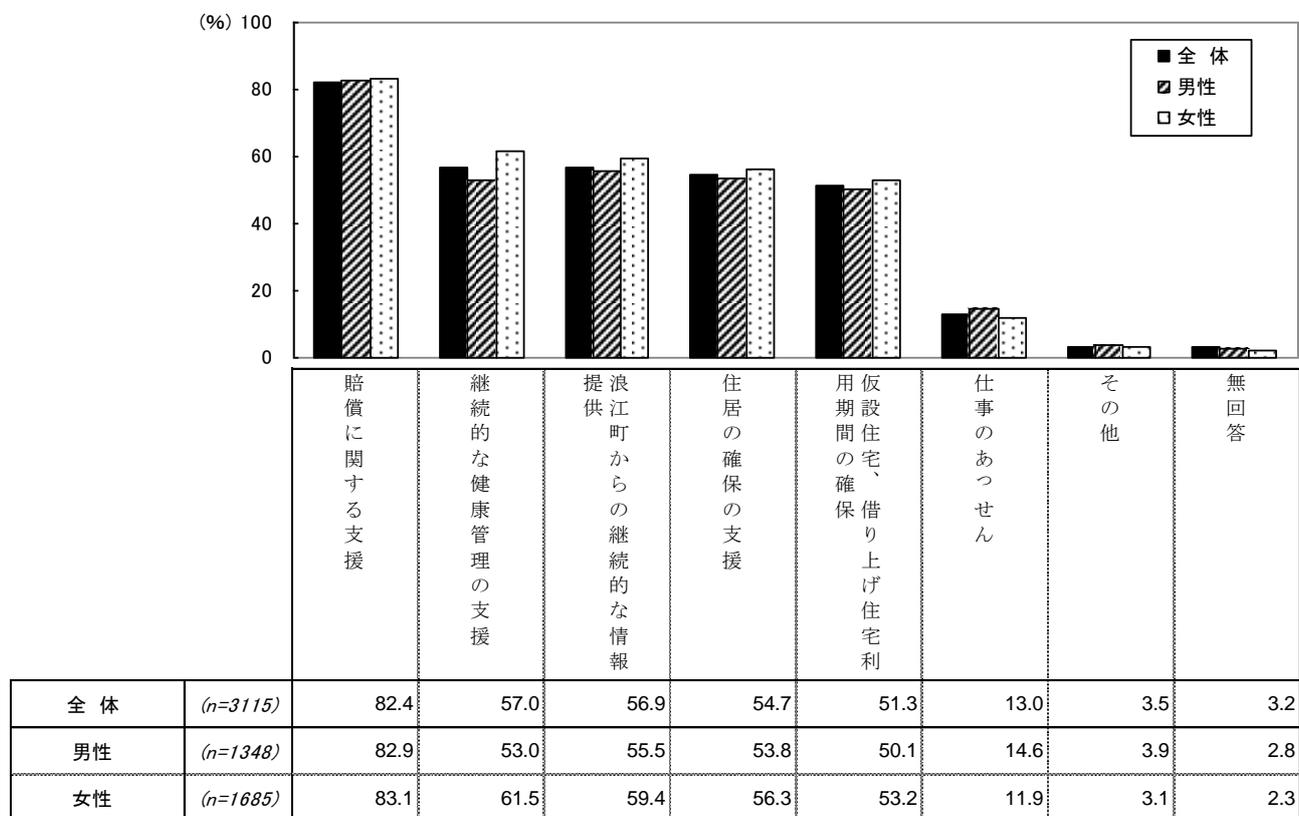
【問 10 で「7 浪江町には戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 14 浪江町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

浪江町の避難指示が解除された場合にも「浪江町には戻らないと決めている」という回答者(3,115 人)が、今後の生活において行政に望む支援としては、「賠償に関する支援」が 82.4%で際立って多く、次いで「継続的な健康管理の支援」(57.0%)、「浪江町からの継続的な情報提供」(56.9%)、「住居の確保の支援」(54.7%)、「仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保」(51.3%)などが 5 割台で続いている。「仕事のあっせん」を望む回答者は 13.0%にとどまっている。(図表 6-7-1)

男女別に見ると、「継続的な健康管理の支援」(男性 53.0%、女性 61.5%)は、男性より女性が強く要望している。(図表 6-7-1)

図表 6-7-1 今後の生活において行政に望む支援(男女別)



性・年代別に見ると、「継続的な健康管理の支援」は女性の30～50代で、要望が強い。女性の30代では「仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保」(61.9%)についての要望も、他の性・年代層より強い。また、「仕事のあっせん」は、男性の10～40代と女性の30～40代で、2割前後が要望している。(図表6-7-2)

図表6-7-2 今後の生活において行政に望む支援(性・年代別)

		賠償に関する支援	継続的な健康管理の支援	浪江町からの継続的な情報提供	住居の確保の支援	仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保	仕事のあっせん	その他	無回答
全体	(n=3115)	82.4	57.0	56.9	54.7	51.3	13.0	3.5	3.2
男性10-20代	(n=220)	75.5	52.3	49.5	52.3	56.4	21.4	1.4	1.8
男性30代	(n=224)	83.5	53.6	58.5	56.3	54.9	21.9	4.5	3.6
男性40代	(n=207)	84.1	54.6	56.0	57.0	58.9	18.8	4.8	3.4
男性50代	(n=273)	83.5	47.3	52.7	52.4	47.3	12.8	5.1	2.2
男性60代	(n=243)	86.8	56.8	56.8	53.5	44.0	8.6	3.3	2.1
男性70代以上	(n=180)	83.9	55.6	61.1	51.1	38.3	3.3	4.4	4.4
女性10-20代	(n=294)	79.6	54.4	45.2	47.6	50.7	15.0	2.4	3.7
女性30代	(n=257)	81.3	70.8	62.6	57.2	61.9	20.2	3.9	0.8
女性40代	(n=231)	83.5	66.2	58.0	61.5	55.4	18.6	2.6	1.3
女性50代	(n=320)	86.6	64.4	60.9	62.5	56.3	13.8	2.5	1.6
女性60代	(n=305)	84.9	58.4	68.9	61.0	50.2	3.3	3.0	1.6
女性70代以上	(n=274)	82.1	56.2	60.6	47.1	45.6	2.6	4.4	4.4

現在の世帯での立場別に見ると、「継続的な健康管理の支援」(世帯主 54.7%、構成員 60.6%)への要望は、世帯主もしくは世帯の代表者より世帯構成員に多くあげられている。(図表6-7-3)

図表6-7-3 今後の生活において行政に望む支援(現在の世帯での立場別)

		賠償に関する支援	継続的な健康管理の支援	浪江町からの継続的な情報提供	住居の確保の支援	仮設住宅、借り上げ住宅利用期間の確保	仕事のあっせん	その他	無回答
全体	(n=3115)	82.4	57.0	56.9	54.7	51.3	13.0	3.5	3.2
現在世帯主・代表者	(n=1348)	83.0	54.7	57.3	54.1	50.8	12.3	4.7	3.2
現在世帯構成員	(n=1472)	82.4	60.6	58.7	55.7	52.2	14.5	2.7	2.4